

## わたしの妹

### 小 四

わたしには、一才下の妹がいます。とてもかわいくてやさしい妹です。妹には、しょう害があるので、ちがう市にある特別しえん学校に通っています。わたしが五才くらいのとき、「どうして妹には、しょう害があるのだろうか。」「しょう害がなかったら、外でいっしょに遊べたのに。」と思っ  
ていました。今考えると、そのときわたしは五才くらいだったので、妹のしょう害のことが、よく分かっていたのだから、お姉ちゃんと思ひます。もしかしたら妹も、「お姉ちゃんと思ひ外でいっしょ

に遊びたいな。」と思ひていてくれたいたのかもしれない。このことをお母さんに話したことがありました。そうしたらお母さんに、「妹がしょう害者でもよかつた？」と聞かれました。わたしはそのとき、うまく返事をするのできなかつたことを覚えています。妹にしょう害がなく生まれてきてくれていれば、いっしょに外で遊べたかも知れないという思ひや、友だちに妹のことで何か言われるかもしれないという思ひが大きかつたのかも知れません。今、わたしの妹は、立ったり歩いたりすることの練習を一生けん命がなばつています。わたしは、そんなすがたを見て、妹はがんばり屋さんなのだ

思います。いっしょに外で遊ぶことはできないけれど、家の中では、いっしょにピアノをひいて、仲よく遊んでいきます。

特別しえん学校に通っていて、妹は学校でいつもどんなことをしているのだろうか、同じ学校のみんなと仲よく生活できているのだろうか、と心配になることもあります。でも、特別しえん学校からのお便りを見せてもらうと、楽しそうにすごしている様子が伝わってくるので、わたしもとてもうれしい気持ちになります。

妹は「しえんせき学習」で、年に何回かわたしが通っている小学校に、お母さんと特別しえん学校の先生といっしょに来ることがあります。そういう

日は、わたしは朝からワクワクします。わたしより一つ下の学年のみんなといっしょに、体育館で「ボッチャ」をしたり、図工でみんなと作品を作ったりして勉強している様子を見たときには、とても安心しました。家に帰ってお母さんから、妹がみんなといっしょにがんばっていたことを聞き、うれしくなりました。新しい学年になっても、「しえんせき学習」で来ることになっているので、わたしも今からとても楽しみにしています。

今度もう一度、お母さんに、「妹がしよう害者でもよかった？」と聞かれたら、「うん、よかったよ。」とはっきりと返事をすると思います。

しょう害があっても、わたしにとって  
は世界でたった一人のかわいい妹です。  
そんな妹を、これからもずっと大切に  
していきたいと思います。